

## 助産師学校進学希望者交流会活動報告 — 助産師学校養成所に進学した卒業生との交流の橋渡し —

山崎 由美子<sup>1)</sup> 五味 麻美<sup>1)</sup> 加藤 良子<sup>1)</sup>

キーワード：助産師学校養成所 進学支援 卒業生 交流会

### はじめに

日本の助産師教育は多様化している。平成28年助産師学校養成所数<sup>1)</sup>は大学院36校、大学93校、大学専攻科・別科34校、短期大学4校、専修学校・各種学校43校、総数210校であり、諸外国と比べ養成所数が非常に多いことがわかる<sup>2)</sup>。

川崎市立看護短期大学は平成7年に開学した3年制の短期大学であり、助産師になるためには看護師教育課程を終了後、前述の助産師学校養成所（以下、助産師学校とする）に進学しなければならない。年度により多少の変動はあるものの、毎年2～3人の学生が助産師学校に進学している。

現在、母性看護学領域は准教授・講師・助教各1人で構成されており、全員が助産師資格を取得している。そのため、助産師になりたいという学生の支援を領域全体で継続して行っている。学生の相談内容としては、「助産師になるにはどうしたらよいか」「どのような学校があり、その違いはなにか」「進学するためにどのような準備をすればよいか」などといった進路選択に関するものや、「助産実習はどのようなことをするのか」「高度な学習についていけるのか」「学費等の経済的問題に対しどのような解決策を見出せばよいのか」などといった進学後を想定した未知の世界への不安に関するものが多く、学生の相談ニーズが大きいことがわかる。先行研究<sup>3)4)</sup>においても、助産師学校への進学を迷う理由として「合格する自信がない」「経済的困難」、進学の妨げとを感じる要因として「学費や生活費の捻出」「国家試験の準備と受験勉強の両立」などがあることが指摘されている。

本学は、全学生に対し進路相談・ガイダンスを実践しており、学生がスムーズに進学・就職活動を進

めていけるように情報提供を行っている。また、担任制による個別相談の機会を設けており、これらの成果は学生のアンケート結果などから把握することができる。しかし、助産師学校進学に関してはその特殊性・専門性からより学生のニーズに合わせた支援が必要であると考え、平成25年度から母性看護学領域の教員が主催する「助産師学校進学希望者交流会」を開催するに至った。これは、助産師学校に進学した卒業生との交流の橋渡しを第1の目的としており、学生から高い評価を得ている。現在、開催から4年を経過し、活動内容や意義、今後の課題等を検討したため報告する。

### 1. 「助産師学校進学希望者交流会」の企画運営

#### 1) 開催目的

助産師学校に進学した卒業生との交流を通し、自己の進学動機や意志を再確認する。また、助産師学生または助産師をより身近な存在として認識することにより、自己の助産師像を形成するきっかけをつくる。

#### 2) 開催時期・時間

学生（全学年）と助産師学校に進学した卒業生（助産師学校在学または卒業）とのスケジュールを調整した結果、年度末および夏季休暇期間が適していると考えた。この際、卒業生には卒業時に任意で確認した連絡先に教員が連絡した。開催時間は2時間を予定し、交流会終了後1時間程度の予備時間を設け、個別に相談できる機会をつくった。

#### 3) 開催場所

参加人数に合わせ、本学の小教室を使用した。長机を「口」の形に配置し、その外周に椅子を置いて座ることで、参加者全員が顔を見合わせつつ、適度な距離感で意見交換を行うことができるレイアウトとした。

1) 川崎市立看護短期大学

#### 4) 参加者の募集

開催日時が確定した後、大学の学生掲示板およびツイッターを通し参加者を募った（全学年）。

#### 5) プログラム

##### (1) 開催の挨拶

教員が交流会開催に至った経緯、目的などを説明するとともに、学生および卒業生に対し謝意を表した。

##### (2) 自己紹介

教員、卒業生、学生の順でそれぞれが、助産師志望動機などについて語る場所から始めた。

##### (3) 卒業生の近況報告

卒業生が、助産師学生としての現在の様子などについて報告した。

##### (4) 質疑・応答

自由討議型とし、自由に話し合える話題展開となるよう努めた。

##### (5) 閉会の挨拶

教員が挨拶とともに、助産師の使命や社会からの期待など、看護師教育課程の講義では十分に触れることができなかった助産師という専門職の長期的な展望を示唆し、学生および卒業生に新たな課題が見出せるようにした。

##### (6) 予備時間

教員は退室し、学生と卒業生が自由に交流できるよう配慮した。

## 2. 学生および卒業生のアンケート結果

### 1) 倫理的配慮

学生および卒業生には、口頭および書面にて調査の目的（助産師学校進学への支援に役立つ）を説明するとともに、調査票への記入は自由意思であ

り、回答がない場合にも不利益を被ることはないこと、調査は無記名で行い、データは統計的に処理するため個人が特定することはないこと、結果は学術的な目的以外に使用しないことなどを説明した。また、調査票は教員が退室した予備時間に開催場所に備え付けられた回収ボックスに提出することとし、調査票が提出された段階で調査への同意が得られたと判断することも説明した。

### 2) 結果

初回である平成25年度はアンケートを実施しなかったため、平成26年度～平成28年度のアンケート集計を報告する。

参加者は1年生14人、2年生12人、3年生1人、学生計27人、卒業生(助産師学校在学または卒業)9人であり、全員から回答が得られた(表1)。

表1. 助産師学校進学希望者交流会参加者

	1年	2年	3年	卒業生
平成26年	8	3	0	5
平成27年	3	5	1	1
平成28年	3	4	0	3
計	14	12	1	9

#### (1) 学生

「交流会は進路を考える上で役立ったか」という問に対し、全員が「とても役立った・役立った」と回答した。「交流会を次年度も継続した方がよいと思うか」という問に対しても、全員が「とても思う・思う」と回答した。助産師に興味をもった時期、助産師学校進学に関する相談経験の有無等は、表2に示す。

表2. 助産師学校進学希望者交流会アンケート結果(学生)

n=27

		n(%)	
助産師に興味を持った時期	入学前	22(81.5)	
	入学後	5(18.5)	
助産師学校進学に関する 相談経験の有無	ない	9(33.3)	
	ある	18(66.7)	
	時期	入学前 入学後	3(16.7) 5(27.8)
	相談相手 (複数回答)	教員	9(50.0)
		担任	5(27.8)
		親	5(27.8)
先輩 その他		1(5.6) 3(16.7)	
助産師学校に進学した人 との交流経験の有無	ない	17(63.0)	
	ある	10(37.0)	
	時期 (複数回答)	交流会 オープンキャンパス その他	4(40.0) 2(20.0) 2(20.0)
	交流相手	先輩	7(70.0)
		その他	3(30.0)
交流会への参加理由(複数回答)			
先輩の話聞いたかった(22) 進学に興味があった(12) 大学からのツイッターを見て興味を持った(6) 友達に勧められた(3)			
交流会は進路を考える上で役立ったか(複数回答)			
実習と学習の両立の話を具体的に聞くことができた(9) 助産師学校に行っている人の話を聞くのが初めてだったので、とても貴重な体験だった(7) 受験への対策を知ることができた(2) ネットに書いていないことや詳しい内容が聞くことができた(2) 助産師学校についてイメージがわいた 助産師学校の大変さがわかったこと、大変さを含めて受験することを決めたいと考えた 正直な話を聞くことができた(遠慮せず質問できる雰囲気だった) 自分の将来を考えることができた			
交流会参加による助産師や助産師学校に対するイメージの変化(複数回答)			
とても変化した・変化した(21) 予想していたよりも大変だと思った(9) 助産師学校がアットホームだということを知った(3) 命と接する仕事なので本当にしっかりとした気持ちや覚悟が大切だなと感じた(2) 助産師学校の厳しさやそこから生まれる充実感を感じた 助産師になるための狭き門を感じた 完璧な看護学生だけが助産学校にすすむわけではないと知って少し安心した お金がかかるというイメージが強く進学は難しいと考えていたが、支援があると聞き進学を視野に入れた			
交流会を次年度も継続したほうがよいと思うか(複数回答)			
先輩の話はとても具体的で参考になる(9) 助産師についての話を聞くことができる貴重な機会だから(7) 今後の見通しが早めにつくから 後輩たちにもこういう機会に参加して欲しい			

無回答は除く

(2) 卒業生  
「交流会を次年度も継続した方がよいと思うか」

という問に対し、全員が「とても思う」と回答した。交流会への参加理由等は、表3に示す。

表3. 助産師学校進学希望者交流会アンケート結果(卒業生)

n=9

交流会への参加理由(複数回答)
後輩に少しでもアドバイスできれば(5) 助産師学校進学希望の学生と関わることで自己のモチベーションをあげたかった 先輩の話を聞いたかった(2) 一人でも多くの人が目標に向かってほしい
交流会を次年度も継続したほうがよいと思うか(複数回答)
自分が参加してすごく良い情報が聞けたから(3) 後輩のためにもなるし、自分も先輩の話を聞けるので参考になる(2) 助産を経験したことがない後輩にとって、助産をイメージするのに役立つから

### 3. 考察

#### 1) 助産師学校進学への支援としての「助産師学校進学希望者交流会」の意義

##### (1) 学生側から考える「助産師学校進学希望者交流会」の意義

入学前から助産師に興味をもっている学生が多く、参加者も1年生が最も多かった。しかし、助産師学校に進学した人との交流経験は、6割以上がないと回答しており、このような機会を設けることは必要と考える。「交流会は進路を考える上で役立ったか」という問に対しては、全員が「とても役立った・役立った」と回答しており、自由記載の内容から考えても開催目的である「自己の進学動機や意志を再確認する」機会となっており、助産師学校進学への支援として有効であると考えた。また、「交流会参加による助産師や助産師学校に対するイメージの変化」については、7割以上が「とても変化した・変化した」と回答しており、これも開催目的である「自己の助産師像を形成するきっかけをつくる」ことに繋がったと考える。

前述のように、助産師学校への進学は、経済的な問題が付随することが多い。しかし、「お金がかかるというイメージが強く進学は難しいと考えていたが、支援があると聞き進学を視野に入れた」という回答のように、交流会に参加し、実際に奨学金などを活用しながら進学した卒業生と出会うことは、助産師学校進学に対する実現可能性の判断に大きな影響を与え、進路を再考するきっかけになることがわかった。

##### (2) 卒業生側から考える「助産師学校進学希望者交流会」の意義

交流会への参加理由は、「後輩に少しでもアドバイスができれば」「一人でも多くの人が目標に向かってほしい」といった後輩の自己実現への支援として捉えていることがわかった。またその背景には、自分も以前学生として交流会に参加し、役立ったという経験が存在していることもわかった。一方、卒業生もこの交流会により「先輩の話を聞いたかった」や、「助産師学校進学希望の学生と関わることで自己のモチベーションをあげたかった」などといった自己にとってもプラスの価値を見出していることがわかった。難関を突破し助産師学校に進学したとしても、過密なカリキュラムや10件の分娩介助などによる今まで経験したことのない過度なストレスにより、自己を見失いそうになることは筆者らも経験している。そのような状況において、かつて自己が助産師を志すことを決意した場所に立ち返ることは、「自己の進学動機や意志を再確認する」という開催目的に通じる。そこには、助産師を志す者という集団への帰属意識が根底に存在していると考えられ、このような繋がりは、卒業生にとっても重要なことであることがわかった。

#### 2) 助産師学校進学への支援に対する今後の課題

「助産師学校進学希望者交流会」は開催から4年を経過し、学生および卒業生から高い評価を得ている。しかし、学生(全学年)と卒業生のスケジュールを調整するため、開催日時が年度により違うことや、開催日時の確定が遅れ、参加者を募集する期間が短いこともあった。そのため、希望があったにもかかわらず参加できなかった学生も存在する。これに対しては、年度の初めにおおよその計画をたて、学生および卒業生にアナウンスしていきたいと考え

ている。

学生および卒業生は、交流会をきっかけに自己の責任において各々交流を深めることがあり、人間関係に幅をもたせるよい経験になると考える。しかし、近年大学等において人間関係やSNS等のトラブルが問題視されており、対応を求められている。

「助産師学校進学希望者交流会」の活動を通しては、現在のところ問題は生じていないが、危機管理の一つとして対応を視野に入れて活動する必要があると考える。

本活動においては、参加者の進路への影響や助産師学校志願者および合格者の推移、助産師学校進学後の状況などといった縦断的調査を視野に入れ、さらなる発展に力注ぎたいと考える。

## 引用文献

- 1) 日本看護協会出版会編集. 平成28年看護関係統計資料集. 日本看護協会出版会, 2017年, p. 40-41.
- 2) 大石時子, 入山茂美, 猪俣理恵, 西島希美. 諸外国の助産教育についての調査報告. 助産師教育ニュースレター. no. 79, 2013, p. 6-8.
- 3) 正木紀代子, 岡山久代, 焚口由美他. 滋賀県下における看護学生の助産師課程進学希望とキャリア意識の実態調査. 滋賀母性衛生学会誌. vol. 9, 2009, p. 22-26.
- 4) 吉田真奈美, 正岡経子, 丸山知子. 北海道内看護学生の助産師教育課程への進学希望に関する実態調査. 北海道母性衛生学会誌. vol. 40, 2011, p. 21-25.

## おわりに

本学の教育理念として、「生涯にわたり専門性を追求し、保健医療チームの一員として地域社会に力強く貢献できる人材を育成する」ことが掲げられている。「助産師学校進学希望者交流会」は、助産師としてのキャリアを通し、保健医療福祉の発展に貢献できる人材を育成することに繋がる。私たちはこれからも、将来助産師になる看護学生への支援の一つとして、助産師学校に進学した卒業生との交流の橋渡しを行っていきたいと考える。

## 著者資格の記載

Y.Y データの分析、原稿作成のプロセスに貢献

M.G データの収集と分析に貢献

R.K データの収集と分析に貢献

全ての著者は最終原稿を読み、承認した。